

は じ め に

平成29年7月、国土交通省は、利根川水系19河川における想定最大規模降雨での洪水浸水想定区域を公表しました。これは、二百年に一度の大雨被害への対処を想定して進めてきたこれまでの対策を、「新たなステージに対応した防災・減災の在り方」として、千年に一度の大雨被害に対処可能とするよう見直しが進められたからです。

国土交通省が科学的知見に基づきリスク・アセスメントを行った結果、野田市の一部は水面下10メートルに没し、浸水継続時間は672時間にも及ぶ可能性があることが公表されました。該当自治体は、そのリスク・アセスメントに基づき洪水ハザードマップをこれから作成することとされています。そして、必要があれば地域防災計画を改定し、市民の安全を確保する方策を講じることとなります。これがリスク・マネジメントです。さらに、地域防災計画の改定に際しては、行政担当職員と市民の代表が一堂に会する地域防災会議において議論を重ね、パブリック・コメントによって直接市民との対話が進められるでしょう。このリスク・コミュニケーションの過程によってこそ、市民の安心感が醸成されていくのです。

今年も野田健康福祉センター（野田保健所）の事業年報をお届けする季節を迎えました。この年報は、県民に広く公表されるものであり、保健所にとって、貴重なリスク・コミュニケーションの一つの機会であると私は考えています。我々の平成28年度の活動をご覧頂き、広く皆さまからご指導、ご鞭撻を頂くことを願っています。

保健所は、兎角リスク・マネジメントやコントロールに力を傾注しがちです。リスク・コントロールだけをみれば、野田から河川が無くなればよいとの極論に走ります。三方を河川に囲まれている地勢は、リスクではあるも、野田市のかけがえのない個性の一つです。リスク・コミュニケーションの重要性を常に認識し、県民の声に謙虚に耳を傾けながら、県民の安全・安心の拠点となるべく努力することをお約束し、はじめの言葉とさせていただきます。

平成29年10月

千葉県野田健康福祉センター長（野田保健所長） 坂本 泰啓

目

次

I 総括	1
1 沿革	2
2 概要	3
3 管内の状況	3
4 健康相談	5
5 各種委員会	6
6 機構及び事務内容	8
7 職員数及び配置状況	9
II 総務企画課の業務概要	11
1 歳入・歳出決算	14
2 医務関係	16
3 薬務関係	19
4 献血推進事業	22
5 地域保健医療計画の推進	23
6 情報収集・整理・活用	24
7 協議会・委員会の開催状況	27
8 保健所保健・福祉サービス 調整推進事業	28
9 地域保健従事者研修・保健所 実習	28
10 広報・啓発事業	29
11 地域防災対策	30
III 地域保健福祉課の業務概要	31
1 保健師関係指導事業	34
2 母子保健事業	36
3 成人・老人保健事業	39
4 一人ひとりに応じた健康支援 事業	40
5 総合的な自殺対策推進事業	41
6 地域・職域連携推進事業	41
7 栄養改善事業	42
8 歯科保健事業	51
9 精神保健福祉事業	52
10 肝炎治療特別促進事業	59
11 難病対策事業	59
12 市町村支援	64
13 福祉関係事業	66

IV 健康生活支援課の業務概要	73
1 結核予防事業	76
2 感染症予防事業	85
3 エイズ対策事業	92
4 難病相談事業	94
5 原爆被爆者対策事業	98
6 食品衛生事業	99
7 狂犬病予防事業及び動物愛護 管理事業	106
8 環境衛生事業	110
V 資料編	117
1 野田保健所管内 保健・介護 サービス施設	118
2 学会・研究会における発表	119
3 表彰関係一覧表	119
健康福祉センター案内	120

凡 例

- 各表、図は、年とあるものは1月～12月の暦年、年度とあるものは、1月～翌年3月の会計年度である。
- 各表中、年号表示のない資料は、平成28年度分（平成28年4月1日～平成29年3月31日）
- 各表欄外の注を参照のこと。
- 各表の数字は、単位未満を四捨五入してある。したがって、合計表と内訳の計が一致しない場合がある。
- 各表の符号は、特にことわりのないほかは、次のとおりである。
 - 「0」掲載単位に満たないもの
 - 「-」該当なし
 - 「…」事実不詳又は資料なし
 - 「△」減少を示す

